

音楽的な見方・考え方を働かせる中学校音楽科の

創作、器楽の授業づくり

—音遊びやアーティキュレーションを工夫する活動を取り入れた 実践を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 造形・創造科学系（音楽）

コロナ感染症対策下における課題として、《再表現活動に偏りがちな音楽授業の見直し》が挙げられる。再表現活動に偏らないためには、創作など自分で新しいものを生み出す活動を充実させていくことが必要なのではないかと考え、実践と考察を行った。

音遊びを取り入れたことで、難しいイメージのある創作の活動も楽しみながら行うことができた。また、音を聴いて感じたことと、自己のイメージを関連させながら音楽を創作することができた。

アーティキュレーションを工夫する活動では、指示がない楽譜を音楽として表現するのがいかに難しいかという大切さに気づくことにつながると感じた。ある子がスタッカートをつけているところに別の子はスラーを付けてみたり、スラーを付ける位置が人によって違ったりといった音楽性の違いなどを感じるができる実践になったのではないかと考える。この音楽性について、中学生の段階で気づかせる大切さを感じた。

今後は教師力向上実習での課題を克服し、子どもが楽しみながら音楽的な見方・考え方を働かせられる授業づくりのできる教師を目指していきたい。